月刊 名大文学部

第 98 号
発行：名古屋大学文学部
広報体制委員会
koho@hum.nagoya-u.ac.jp

教員コラム―No.96

イノシシと言えば猪突猛進？

伊藤　大輔（美学美術史学）

著作権の関係上，画像を非表示にしております。

明けましておめでとうございます。

2019 年は亥年ですね。猪が登場する古い時代の作品には「鳥獣戯画」があります。皆さんよくご存じの，兎や蛙が人間のように楽しげに遊ぶ姿が白黒の白描画で描かれた平安時代の絵巻です。この絵巻の中では，猿が高僧の姿になって法会を営む一連のシーンがあります。猪は，その猿僧正が法会を終えて接待を受けている場面で，引出物として鹿と一緒に綱に引かれて登場します。猿はもとより，蛙や兎も擬人化されているにもかかわらず，猪や鹿は捕らわれた野生動物として扱われています。こうした動物の扱い方の違いが，謎の多い「鳥獣戯画」という作品を読み解く手がかりの一つになると考えられていますが，まだ十分な解明はなされていません。

猪が絵画の本格的な主題となるのは大分遅く，江戸時代も後期に入ってからで，中でも大坂で活躍した森派の画家がいくつか作品を残しています。猪と言えば現在では，猪突猛進といった威勢の良いイメージが強いですが，森派が好んで描いたのは，地面に伏して休む猪の姿です。これは臥猪（ふすゐ）と言い，和歌に用いられる雅な歌語を典拠にしています。和歌では，「ふすゐの床」などの形で，安らかな眠りを意味しつつ，逆説的に安眠できない恋の切なさ，苦しさを嘆くことが多いようです。

江戸時代になってこうした王朝のイメージが掘り起こされ，画題化しました。ただし，臥猪はそれだけではなく，撫綏（ぶすい：民をいつくしみ安んじること）とも掛かっていて，天下太平の世の目出度さを洒落で言い表した吉祥画題でもあったとされています。今年も良い年でありますように。

分野・専門紹介―File36

岐阜日中文化交流協会の集いの見学とシリア難民の講演会

分野・専門名：文化動態学

大学院でのゼミ活動の一環として，今年の３月，指導の坂部先生と一緒に，岐阜日中文化交流協会が主催した「日中春爛漫交流会 in 羽島」に参加させていただきました。日中春爛漫交流会は，岐阜県に住んでいる中国人や中国帰国者，中国に関心がある日本人の方々が集まる交流会です。内容としては，坂部先生の特別講演「日中交流の歩み・黒竜江省方正県移民の記憶」があり，また第二部では，中国の歌や民族舞踊，中国本場の茶道等の実演があり，文化の面から中国の習慣に触れることができます。私は中国帰国者の介護問題を研究しているため，在日中国人の団体の活動に直接参加することができ，また中国帰国者支援活動をなさっている方々にお会いするチャンスとなり，その後の研究や調査の進展にも役立ちました。

（金　靚安・博士前期課程２年）

先日，名古屋在住のシリア難民と弁護士の方をお招きした講演会が，名古屋大学にて開催されました。映画「シリアに生まれて」の鑑賞と難民体験談を通して，シリアの過酷な現状と，それに呼応しない日本の難

民受け入れ政策の実状が明るみに出されました。ところで，私たちの歴史上には，様々な理由から母国を追われ，言語や文化の全く異なる地での生活を強いられている多くの人々が存在します。文化動態学の授業は，このような移民・難民問題や人の移動に関するものが中心です。例えば，田所光男先生の「文化動態総合演習」では，フランスにおけるユダヤ人について検討しています。後半期には毎回の担当者が自由にテーマを決めて発表をおこない，ユダヤ人の国や時代を越えた変動に多角的にアプローチしています。

（田中　はるな・博士前期課程 2 年）

分野・専門紹介―File37

大学での「地理」

分野・専門名：地理学

「地理学」と聞くと，地図･地名を覚えたり，国や地域の農業や工業の特徴を覚えたりといった，中学や高校の地理の授業での記憶を思い浮かべる人も多いかも知れません。暗記しないといけないことが多く，単調でおもしろくなく，行ったことも無い土地のことを覚えないといけないとなると，あまり授業科目としての地理が好きという人は多くはないのではないでしょうか。自分自身も文学部に入り，大学 1 年生の春にオムニバス講義で地理学専攻の教員の講義を受けるまでは，地理学についてそのような印象を持っていました。

地理学専攻に進み，周りの人から「地理学は何をするの？」と訊かれることがよくあります。自分の中でその質問に対する端的で明確な答えはまだ見つかっていません。逆に言うと，その質問に対してあらゆる答えの可能性があると思います。地理学では日常的なものから，地球規模のスケールまであらゆることが，その興味･研究の対象になります。1 年生のときに受けたたった 4 回の地理学の講義を通して，地理学について高校までの”暗記”というイメージから，あらゆるものごとに興味の対象を向けることができるという，奥が深く，好奇心をそそられるものという印象を持ちました。

地理学専攻では，2 年生，3 年生のときにそれぞれ自分で研究テーマを決めて，実際に調査地に赴き，泊まり込みで数日間の現地調査を行い，最終的に研究成果の発表･報告論文を作成する野外実習があります。はじめての経験ばかりで決して簡単なものではありませんが，2 年生のうちから研究活動を体験できたのは，大学生活の有意義かつ良い思い出の 1 つとなっています。（阿部　雅也・学部 4 年）

最近の文学部

今年もよろしくお願いいたします！

暖かい秋が長かっただけに，急な冷え込みが体にこたえます。インフルエンザも大流行のようです。特に受験生にとっては大切な時期。イノシシのように元気に乗り切って下さい。4 月には名大で満開の桜が待っています。（YK 記）

＊本紙では，名大文学部の多彩な内容を順に紹介していきますが，それまで待てない人は…
名大文学部の WEB サイト　https://www.hum.nagoya-u.ac.jp/　まで（『月刊名大文学部』のバックナンバーもあります）